

厳しい経営環境を、あらゆる手段で乗り切ってまいります

平素より、株主の皆様におかれましては、格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

東日本大震災により被災された皆様には、心からお見舞い申し上げます。

さて、2011年3月期は、期末に東日本大震災による想定外の需要減退に見舞われましたが、通期では、安定的に推移した国内線旅客収入が前年比103%、3路線を開設した国際線旅客収入が同131%、沖縄貨物ハブネットワーク等の安定化効果で国際線貨物収入が同154%といずれも前期を上回り、業績を大きく伸ばすことができました。一方、費用面では、期初に設定した860億円のコスト対策に加え、さらなる費用削減に取り組んだ結果、営業費用増を最小限に抑えることができました。

役職員一丸となって経営改革に取り組んできたこの1年で、最終利益の黒字化、復配という経営目標を達成することができました。改めて、株主の皆様のご支援に対し、厚く御礼を申し上げます次第です。

ところで、東日本大震災と福島第一原子力発電所の事故は、日本の観光産業全体に甚大な影響を与えています。震災発生以降、冷え切っていた旅客需要も、ゴールデンウィークの直前から上昇に転じてはいますが、旅客需要が完全に回復するには、相当

の期間を要するものと考えています。

ANAグループは、これまで幾度となく経験した経営環境の激変を、全役職員で力を合わせて乗り切ってきました。今回も、需要喚起に努めるとともに、需要に応じた機材の適正化や緊急コスト対策、経営改革によるさらなる生産性向上など、あらゆる手段を講じて、この厳しい経営環境を乗り切る決意で臨みます。

本年3月、当社は国際線定期便就航25周年を迎えました。そして来年は、創業60周年を迎えます。また、念願のボーイング787型機についても、導入に向けた最終準備が本格化しています。この厳しい経営環境の先に飛躍があることを糧に、これからも役職員一同、株主の皆様や社会から信頼され続ける企業となるために邁進してまいります。株主の皆様におかれましては、変わらぬご愛顧とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。



2011年6月

代表取締役社長

伊東 信一郎